



No.185

心臓財団 季報

November 10, 2006

平成18年度日本心臓財団研究奨励決定

本年度の研究奨励事業は、第32回日本心臓財団研究奨励と第4回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金)に全国から84名の応募があり、望月正武 東京慈恵会医科大学内科学教授を委員長とする選考委員会が10月12日に開かれ、下記に掲載の12名が選考されました。

第32回日本心臓財団研究奨励は40歳未満の少壮研究者を、第4回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金)は30歳未満の将来性のある若手研究者を対象に心臓血管病の成因、治療、予防等循環器の研究領域広範囲から募集するものです。奨励金は日本心臓財団研究奨励がこれまでの1件100万円より200万円に増額、

若年研究者研究奨励(藤基金)が各100万円で、贈呈式は来る12月18日に東京・銀行倶楽部において行われます。

委員長	望月 正武	東京慈恵会医科大学内科学教授
委員 (五十音順 敬称略)	栗原 裕基	東京大学大学院医学系研究科代謝生理学教授
	米田 正始	京都大学大学院医学研究科心臓血管外科学教授
	鄭 忠和	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科循環器・呼吸器・代謝内科学教授
	朽久保 修	横浜市立大学大学院医学研究科情報システム予防医学教授
	松崎 益徳	山口大学大学院医学研究科器官病態内科学教授
	光山 勝慶	熊本大学大学院医学薬学研究部生体機能薬理学教授
	盛 英三	国立循環器病センター 研究所心臓生理部長
	山口 巖	筑波大学附属病院院長

第32回日本心臓財団研究奨励

(五十音順・敬称略・奨励金額はそれぞれ200万円)

番号	氏名	所属	研究課題
1	岩永 善高 (40歳)	京都大学大学院医学研究科循環器内科 産学官連携講師	カルシウム結合蛋白S100A4の制御による 新規心不全治療法の開発
2	金井 恵理 (37歳)	京都府立医科大学医療センター 医務主幹・循環器病態制御学助手	循環器疾患予防制圧のための脳血管画像評価: 前高齢期の疫学調査と新たな行政戦略
3	新藤 隆行 (40歳)	信州大学大学院医学研究科 臓器発生制御医学教授	動脈硬化進展におけるアドレノメデュリンー RAMP2システムの役割
4	鈴木 亨 (39歳)	東京大学大学院医学系研究科 クリニカルバイオインフォマティクス研究部門特任教員	血管疾患における酸化傷害の直接検出法の開発 ならびに解析
5	館野 馨 (36歳)	千葉大学大学院医学薬学府 循環器病態学研究生	末梢血単核球細胞移植による虚血組織再生の 分子機序
6	田原 宣広 (39歳)	久留米大学医学部内科学 心臓・血管内科助手	動脈硬化病変の活動性と治療効果に対して FDG-PETを用いた新しい判定法の開発
7	土肥 薫 (37歳)	三重大学医学部附属病院 循環器内科医員	心不全患者への夜間ANP持続投与による 睡眠時呼吸障害および血行動態改善効果の検討
8	前田 法一 (36歳)	大阪大学大学院医学系研究科 内分泌代謝内科学特任研究員	心血管病発症におけるアディポネクチンと アクアポリンの分子機構の解明
9	牧野 伸司 (38歳)	慶應義塾大学医学部再生医学助手	小型魚類を用いた心筋再生遺伝子のスクリーニング
10	渡辺 徳光 (37歳)	東京大学医科学研究所先端診療部助手	新規non-coding RNAの大血管および 心臓発生への関与

第4回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金)

(五十音順・敬称略・奨励金額はそれぞれ100万円)

番号	氏名	所属	研究課題
1	大野 正裕 (29歳)	昭和大学医学部第一外科学大学院生	中等度低体温循環停止におけるhuman Atrial Natriuretic Peptide(hANP)の腎保護作用
2	小池 智也 (28歳)	山梨大学大学院医学工学総合研究部 分子病理学助手	C反応性蛋白の動脈硬化・心筋梗塞発症における 分子メカニズムの解明と治療法の開発

第4回日本心臓財団「動脈硬化Update」 研究助成対象研究者

当財団では、動脈硬化研究の一層の進展と少壮研究者の育成に努めるうえで、動脈硬化領域における研究を行う40歳未満の研究者に対して第4回「動脈硬化Update」研究助成を実施しました。

今回、45題の応募があり、及川眞一 日本医科大学教授を委員長とする選考委員6名による書類審査により3題が選考されました。9月2日に開催された研究発表会で選考された3名による発表をもとに最優

秀賞1題と優秀賞2題が次のとおり決定しました。このほか奨励賞5題が選ばれました。

選考委員(敬称略)

選考委員長	及川 眞一	日本医科大学第三内科学教授
選考委員	上田真喜子	大阪市立大学大学院医学研究科病理病態学教授
(五十音順)	酒井 寿郎	東京大学先端科学技術研究センター教授
	堀内 久徳	京都大学大学院医学研究科循環器内科学講師
	山下 静也	大阪大学大学院医学系研究科分子制御内科学助教授
	山田 信博	筑波大学大学院人間総合科学科代謝・内分泌制御医学教授

第4回日本心臓財団「動脈硬化Update」研究助成対象研究者

(順不同、敬称略、金額単位：万円)

番号	氏名	所属	研究課題	金額
1	中川 嘉 (33歳)	筑波大学大学院 人間総合科学研究科・診断生化学	生活習慣病改善遺伝子 TFE3 の動脈硬化治療戦略の構築	200
2	小田夏奈江 (38歳)	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科分子疫学教室	高齢者病理解剖1,419例を用いた 粥状動脈硬化症の炎症性遺伝子多型関連解析	100
3	鈴木 亨 (38歳)	東京大学大学院医学系研究科 クリニカルバイオインフォマティクス研究部門	プロテオミクス解析による血管疾患の病態発症・制御の解明 —蛋白質間相互作用ならびに化学修飾を中心に—	100

募集のお知らせ

第20回日本心臓財団・バイエル薬品海外留学助成

1. 助成対象

心臓病・脳卒中・高血圧・動脈硬化症等の循環器領域の研究に携わる研究者

2. 助成金額

1件300万円とし原則として10件

3. 応募資格

次の事項のすべてに適合する者

- 初めての海外留学であること
- 35歳未満(1972年4月1日以降生まれ)で日本国籍を有すること
- 1年以上留学すること
- 留学先研究機関の責任者または受入者の承諾を得ていること
- 一定の研究業績を有すること
- 2007年4月1日～2008年3月31日の間に出発の予定であること

4. 応募期間

2006年10月1日～11月30日

第3回日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成

1. 助成対象

循環器領域における分子細胞生物学的研究の進歩に著しい貢献が期待される研究者とする。研究対象は基礎あるいは臨床の別は問わない。

2. 助成金額

1件100万円を10件

3. 応募資格

- わが国に在住する者
- 年齢が40歳未満(2006年4月1日時点の年齢)
- 原則として臨床系教室およびそれに準ずる施設
- 原則として個人研究
- ただし、次の事項に該当する場合は応募できない
 - ①過去本研究の助成対象者となった者
 - ②前年度の助成課題の連続応募

4. 応募期間

2006年12月1日～2007年1月31日(締切日必着)

詳しくは、<http://www.jhf.or.jp/>をご覧ください。

第11回日本心電学会学術奨励賞 決定

平成18年7月7日から9日まで、東京国際フォーラムにて第23回日本心電学会学術集会(会長：小川聡 慶應義塾大学教授)が開催され、8日の総会において当財団が後援している第11回日本心電学会学術奨励賞の授賞式が行われました。

これは日本心電学会の会員で、心電学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される

40歳未満の研究者に贈られるものです。

今回は、相庭武司(国立循環器病センター研究所循環動態機能部)、阪部優夫(富山大学医学部第二内科)が最優秀賞に、野田 崇(国立循環器病センター心臓血管内科)、堀江 格(日本医科大学第一内科)が優秀賞に選ばれました。

2006年「世界ハートの日」キャンペーン報告

あなたの心臓 若さを保っていますか

季報9月号(184号)でもお知らせいたしましたように、日本心臓財団では本年も「世界ハートの日」キャンペーンを各地で展開しました。

本年のテーマは「How Young is Your Heart?: あなたの心臓 若さを保っていますか」です。日本心臓財団では心臓の若さを保つためには、健康的な食事と運動、そして禁煙が重要であることを、「世界ハートの日」パンフレットを通して訴え、さらにメタボリック・シンドロームの予防として、腹囲測定メジャーを配布しました。

9月11日に行われたプレスセミナーでは、今年5月に厚生労働省が発表した、わが国のメタボリック・シンドロームの実態を受け、今後どのような予防対策をとっていくべきなのか、運動の面から愛知学院大学教授の佐藤祐造先生に、食事の面から滋賀医科大学の上島弘嗣先生に、お話しいただきました。

21日の市民シンポジウムでは、早朝血圧測定の重要性を東京都老人医療センター副院長の桑島巖先生に、ニコニコペースのウォーキング法について、福岡大学教授の田中宏暁先生に、お話しいただきました。さらにパネルディスカッションには、野球解説者の田尾安志氏をゲストに、木場弘子キャスターの進行で、実際の血圧測定や運動法について実演したり、各パネリストの健康法について、お伺いしました。

23日には、Jリーグのジェフユナイテッド市原・千葉の協力のもと、サッカー観戦に訪れたサポーターにパンフレットや腹囲測定メジャーを配布し、試合前とハーフタイムに「世界ハートの日」フラッグをグラウンド内一周させたり、オーロラビジョンを使って選手が

メッセージを発表するなど、世界的に認知度の高いスポーツであるサッカーを通してキャンペーンを行うことができました。

24日当日には、第54回日本心臓病学会学術集会の協力のもと、市民公開講座を鹿児島で行いました。1700名もの市民が訪れ、専門家による「心臓病にならないための食事・入浴・運動・禁煙」についての講義を熱心に聴いていました。訪れた市民には、先着で「世界ハートの日」ロゴ入りTシャツや、腹囲測定メジャーが配布されました。

そのほか、大阪の枚方市駅前や、フクダ電子アリーナでの市民祭「フクアリふれあい祭」でも、キャンペーンが行われました。

また、産経新聞社とメタボリックシンドローム撲滅委員会と協力し、各地でのウォーキング・イベントにて、「世界ハートの日」パンフレットや腹囲測定メジャーを配布しました。



■協 力:

朝日新聞社、アストラセネカ株式会社、オムロンヘルスケア株式会社、サノフィ・アベンティス株式会社、産経新聞社、ジェフユナイテッド市原・千葉、大寿会病院、日本循環器学会、日本心臓病学会、バイエル薬品株式会社、フクダ電子株式会社、フクダ電子アリーナ

第2回アジア・太平洋循環器病予防セミナー・第19回日本循環器病予防セミナー開催される

日本循環器管理研究協議会(日循協)と日本心臓財団は、10月20日から23日まで福岡県の久山町ヘルスC&Cセンターにおいて、第2回アジア・太平洋循環器病予防セミナーと第19回日本循環器病予防セミナーを合同開催いたしました。

この久山町は、九州大学と町が協力して、1961年から今日に至るまで日本人の心血管病に対する疫学調査を長期に継続している地区であり、ここから生み出されるエビデンスは、日本の循環器病学に大きな貢献を続けています。このような場所で、アジアおよび日本各地から集まった46名の若き医学研究者が寝食をともにし、予防医学に関する熱い論議を交わせたこ

とは、大きな経験になったのではないのでしょうか。

夜更けまで自らの部屋を開放して受講生と語り合った実行委員長の上田一雄先生(杏林会村上記念病院長)をはじめ、多くの専門



医の先生方のご尽力によりセミナーを成功裡に終わることができました。また、本セミナーの開催は、多くの方々のご寄附によるものです。厚くお礼を申し上げます。

「第2回心臓病患者家族への AED心肺蘇生法全体講習会」実施される

10月6日、心肺蘇生法のガイドラインが改定されたことを受けて、東京都医師会と東京都CCU協議会は、2年ぶり、2回目の「心臓病患者家族へのAED心肺蘇生法全体講習会」を実施しました。



2年前の第1回るときも台風でしたが、今回も大雨と強風という天候に恵まれない一日となり、やむなく欠席された方も多くいらっしゃいました。

それでも500名近い受講者が集まり、285名のインストラクターより熱心に指導を受けていました。

今回はじめて受講された方々も多く、胸骨圧迫心臓マッサージが思った以上に力があることを知ったり、またAEDをはじめて操作した方もいて、有意義でしたと感想を述べていました。

スタッフの若い医師の一人は、今度、病院でもこのような講習会を実施するつもりですと話してくださり、このような救命活動の輪が確実に広がっていることを感じました。

日本心臓財団の 新しいロゴマークができました

季報のタイトルの部分に、新しいマークが書かれているのにお気づきですか？

これからの新しい時代に日本心臓財団の果たすべき役割を、林博史先生(東邦ガス診療所)に新しいロゴマークとしてデザイン化していただきました。林先生は日本循環器学会のロゴマークをはじめ多くのデザインを手がけている異才の循環器医師で、先頃の第70回記念日本循環器学会でも学会のロゴデザインの制作にまつわるエピソードが展示されておりました。

日本心臓財団の新しいロゴマークは、季報ではモノクロ掲載ですが、美しいカラーで作られています。近々ホームページ上にて披露する予定です。

青い海に緑の大地で彩られた地球から、青いリボンと赤いリボンがハートを包み込むように伸びています。これには、心臓を守ること(ハートケア)が世界規模・地球規模で取り組まなければならない問題であり、世界中の人たちが手を携えて心臓を大切に守りましょうというメッセージが込められています。そして、それは日本心臓財団がこれから力を入れていくべき活動の一つであり、3ページで紹介している「世界ハートの日」の活動もその一環です。

さらにこのロゴマークは、人が両手で包み込む姿を上から見た形になっています。優しくハートを包み込むことこそ、日本心臓財団の活動の原点であり、願いです。

ご支援ありがとうございます

当財団へのご寄付

次の方からご寄付を頂戴しました。ここにご芳名を記して感謝の意を表します。(2006年9月～2006年10月)

木本 啓一様	東京都北区	
匿名		300,000円
神村 睦代様	高知県高知市	5,000円
田山 久也様	茨城県水戸市	5,000円
匿名		30,000円
石川 恒雄様	茨城県水戸市	10,000円
匿名		100,000円

当財団をご支援下さる方

本年度もご支援をいただいた方のご芳名を掲載します。

(敬称略：2006年8月28日～10月31日)

今泉 勉	島田 和幸	松原 達昭
加納 達二	中谷 庄一	松本 万夫
小見山 延子	永野 允	矢吹 壮
斎藤 隆	林 直彦	横山 光宏

心臓財団からのお願い

～ご寄付ならびに賛助会ご加入～

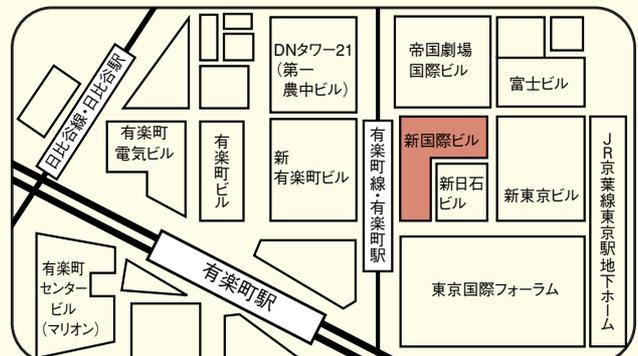
当財団が循環器疾患の予防・制圧事業を展開するうえで、その多くは寄付金ならびに賛助会費により支えられています。あなたのまわりの方にもぜひ呼びかけてください。

ご寄付はいくらでも受けさせていただいております。当財団は「特定公益増進法人」として認可を受けておりますので、税制上の優遇措置が講じられております。

賛助会は日本心臓財団の目的に賛同し、その働きを支援する方々、法人によって構成されています。賛助会費は、個人の場合、年額1万円、法人の場合は5万円で何口でも差し支えありません。

ご支援いただける場合は、下記の口座をご利用ください。

郵便振替口座 00140-3-173597
宛て先 財団法人日本心臓財団



●お近くにお越しの節はお立ち寄り下さい。●